



スパークス・日本株・L&S

マンスリーレポート

基準日 2021年2月26日

【運用実績】

過去のパフォーマンス(%)	直近の分配実績(円)	
	ファンド	TOPIX配当込
過去1か月間	2.16	3.12
過去3か月間	3.27	6.42
過去6か月間	11.15	16.42
過去1年間	16.68	26.40
過去3年間	19.56	13.19
設定来	190.64	205.71
		設定来累計
		1,800

※ 決算期に収益分配があった場合のファンドのパフォーマンスは、分配金(税金控除前)を再投資することにより算出される収益率です。従って実際の投資家利回りとは異なります。

【ロング・ショート別構成】

	比率(%)	銘柄数
ロング	60.1	30
ショート	-31.1	44
ネット	29.0	-
グロス	91.2	-

※ 比率は対純資産総額

※ ネットはロングとショートの差引、グロスはロングとショートの合計です。

【市場別構成(ロング)】

市場	比率(%)
東証1部	43.0
東証2部	0.0
東証マザーズ	14.3
ジャスダック	2.8
その他市場	0.0

※比率は対純資産総額

【業種別構成(ロング)】

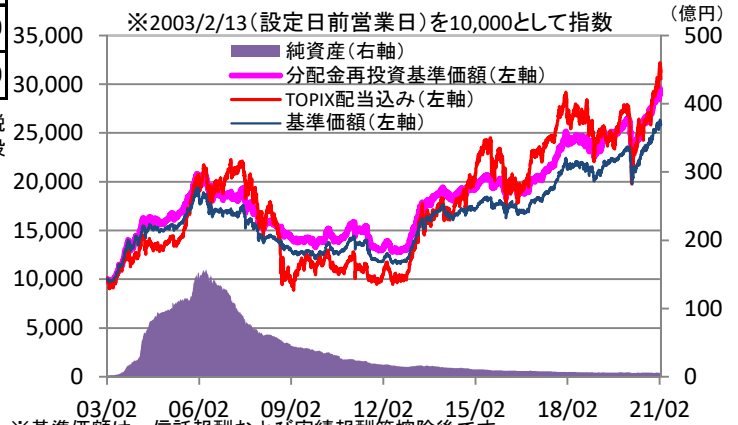
業種	比率(%)
電気機器	10.0
サービス業	9.5
情報・通信業	7.4
機械	7.2
医薬品	4.7
その他	21.3

※比率は対純資産総額

【基準価額・純資産総額の推移】

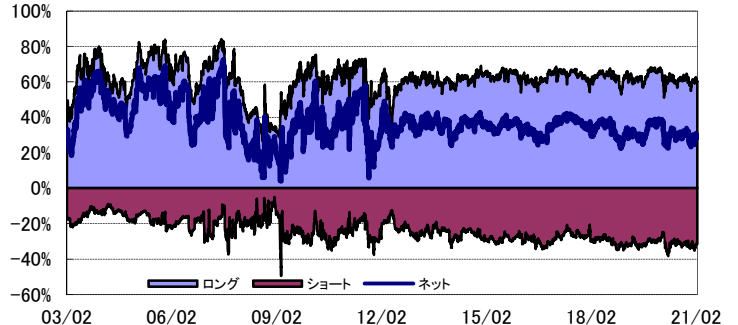
基準価額	25,908 円
解約価額	25,831 円
純資産総額	5.77 億円
ハイ・ウォーター・マーク	26,195 円

※ 基準価額がハイ・ウォーター・マークを超えると実績報酬が発生します。詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。
※ 当該ハイ・ウォーター・マークは、当ファンドの毎計算期間末(毎年2月13日、休日の場合は翌営業日)および毎計算期間の最初の6か月終了日に更新される場合があります。詳しくは委託会社にお問い合わせください。



※2003/2/13(設定日前営業日)を10,000として指数
※基準価額は、信託報酬および実績報酬等控除後です。
※分配金再投資基準価額は、当該ファンドの信託報酬控除後の価額を用い、分配金を非課税で再投資したものと計算しております。
※当ファンドはTOPIX(配当込み)をベンチマークとするものではありません。
※過去の実績は将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

【ロング・ショート比率推移(設定来)】



※ 比率は対純資産総額、ネットはロングとショートの差引

【組入有価証券上位10銘柄(ロング)】

順位	銘柄	業種	比率(%)
1	ギフト	小売業	4.4
2	日揮ホールディングス	建設業	3.9
3	SUMCO	金属製品	3.8
4	ペプチドリーム	医薬品	3.3
5	UTグループ	サービス業	3.1
6	QDレーザ	電気機器	3.1
7	SMC	機械	3.1
8	DMG森精機	機械	3.1
9	村田製作所	電気機器	3.0
10	アンビスホールディングス	サービス業	2.8

※比率は対純資産総額

※ 上記記載のうち、【運用実績】、【基準価額・純資産総額の推移】以外は当ファンドが投資するマザーファンドに関する情報です。

※ 「比率(%)」は、当ファンドが投資するマザーファンドの純資産総額に対する比率です。

■当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社(以下当社)が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当ファンドの取得のお申込を行う場合には、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので、必ずお受け取りの上詳細をご確認いただき、ご自身でご判断ください。■当ファンドは値動きのある有価証券に投資しますので、基準価額は変動します。従って、元本が保証されているものではなく、組入れた有価証券の価格が下落する場合や、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込む場合もあります。また、これらの運用による損益は全て受益者の皆様に帰属します。■投資信託は預貯金・金融債または保険商品ではなく、預金保険や保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、証券会社で購入した場合を除き、投資者保護基金の規定に基づく支払いの対象ではありません。■投資信託の設定・運用は、投資信託委託会社が行います。■当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。■当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてのコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。■当資料の正確性及び完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。■当資料は目的によらず、当社の許可なしに複製・複写することを禁じます。■当ファンドに関する投資信託説明書(交付目論見書)のご請求、お問合せは販売会社まで。

ファンド・マネージャーのコメント

【市況状況】

2021年2月、日本株式市場の代表指数であるTOPIX（配当込み）は前月末比3.12%の上昇となりました。

当月の日本株式市場は、米国の景気回復や企業業績拡大に加え、国内での新型コロナワクチン接種開始を背景に経済活動の活発化が期待され、日経平均株価は一時3万円台と30年振りの高値を記録しました。特に銀行株などの「割安株」の上昇が顕著な動きとなりました。月後半には米国の長期金利上昇をきっかけに世界的に金利が上昇し、ハイテク株などを中心に下落基調となり、当月の上昇幅を縮小して終わりました。

【運用状況】

2月の当ファンドは、QDレーザ、日揮ホールディングスなどが上昇し、パフォーマンスに対してプラスに貢献しました。

QDレーザは、2021年2月に東証マザーズ市場に上場した企業です。レーザデバイスの成長に加え、同社が開発を手掛けるアイウェア製品の将来性を評価して当ファンドは同社に投資を行っています。詳細については【運用方針】にてご説明いたします。日揮ホールディングスは、世界的な経済活動の正常化を背景に原油価格が上昇を続けたことから、エネルギー関連投資が活発化することを見越して株価が上昇しました。

一方、ペプチドリーム、村田製作所などが下落し、パフォーマンスに対してマイナスに影響しました。

ペプチドリームは、発表された2021年12月期の業績予想が前年を下回る数値であったことで短期的な業績に対する懸念が広がり、株価が下落しました。村田製作所は、業績に変化は見られませんが、前月まで大きく上昇し2020年末から上場来高値を更新してきたことで利益確定売りに押され、株価が下落しました。

ロング投資銘柄に対して利益確定の売却を行いました。株価水準が上昇したことでネットポジションは前月に比べ上昇しました。しかし株価指数の水準は歴史的な高水準にあること、新型コロナウイルス感染拡大など経済を取り巻く環境は依然として楽観視できないことから、ネットポジションは当ファンドが中心的な値と考える30%を下回る水準としています。

【運用方針】

日本株式市場は大きく上昇し、日経平均株価は1990年8月以来30年振りに終値で3万円を超える水準となりました。

新型コロナウイルス感染拡大による行動制限に苦しむ日本経済の現状からは、想像しにくい活況が続いています。デジタル化の急速な進展などに見られるように日本が「コロナ禍」を機に、慣習やなれ合い、旧態依然としたルールが打ち壊され、効率的で新しい社会に生まれ変わろうとしていることを先回りして評価していると考えられますが、「コロナ禍」による一時的な変化と長期的な動きを企業調査を通じて見極め、ロング・ショートの投資機会を捉えてまいります。

当月は、当ファンド組入銘柄の「QDレーザ」についてご紹介します。

同社は、Quantum Dot(量子ドット)レーザを専門にした新規上場企業です。東証マザーズ市場への新規上場時（2021年2月）に同社へ投資し、当ファンドのパフォーマンスに寄与しました。

同社は、豊富な光通信技術を有する㈱富士通研究所から2006年にスピノフして誕生した歴史があります。量子ドットレーザの特性に着目し、長い時間をかけて世界で初めて量産化、現在ではレーザデバイスとして様々な先端装置に使用されるに至っています。

当ファンドでは、レーザデバイスの成長余地に加え、同社が多額の先行費用を投じているレーザアイウェア事業の可能性に着目しています。同社が手掛けるレーザアイウェアは、独自のレーザ技術を用いることで、網膜に直接映像を安全に投射することができます。これにより、眼鏡などで視力を矯正できないロービジョンの方でもクリアな視覚を得ることが可能になります。同社は、国内においては既に医療機器メーカーとして認知されており、この医療機器メーカーとしての信頼性と国内大手精密機器メーカーとの共同開発による大幅なコストダウンにより、今後同社製品の普及を促進する考えです。現在市販化されている製品は第二世代モデルですが、2022年後半には第三世代モデル、2025年前後には第四世代モデルの市場投入のための準備を進めています。

当ファンドは第二世代モデルのデモ機を見る機会を得ましたが、一般的に普及するには未だ課題が多いと感じましたが、同社社長との面談を通じて、第三世代モデルにおいては当ファンドの感じる課題の多くは解消され、第四世代モデルが実現されると視覚障害の方以外にも用途が広がると考えました。具体的にはゲーム機などエンターテインメント用途や製造・建設現場における情報端末などスマートグラスとしての可能性は膨大であると、当ファンドは考えます。

一方、2021年3月期は営業赤字が予想され、2022年3月期においても黒字化することは想定しづらいと考えます。しばらくの間は、株価材料に左右される形で同社株価の変動率は大きい展開が予想されますが、中長期の開発ロードマップの進捗や潜在市場規模の変化に特に注目し、適切な投資判断を行ってまいります。

ショート投資では、新型コロナウイルス感染拡大を追い風にこれまで業績が好調だった複数の企業に新規投資しました。「コロナ禍」から1年が経過し「追い風効果」が一巡することで需要が伸びづらくなっていることに加え、設備投資などのコスト増によって収益を上げにくくなっているITサービス業、小売業などの企業にショート投資を行っています。

■当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社（以下当社）が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当ファンドの取得のお申込を行う場合には、投資信託説明書（交付目論見書）をお渡ししますので、必ずお受け取りの上詳細をご確認いただき、ご自身でご判断ください。■当ファンドは値動きのある有価証券に投資しますので、基準価額は変動します。従って、元本が保証されているものではなく、組入れた有価証券の価格が下落する場合や、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込む場合もあります。また、これらの運用による損益は全て受益者の皆様に帰属します。■投資信託は預貯金・金融債または保険商品ではなく、預金保険や保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、証券会社で購入した場合を除き、投資者保護基金の規定に基づく支払いの対象ではありません。■投資信託の設定・運用は、投資信託委託会社が行います。■当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。■当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてのコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。■当資料の正確性や完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。■当資料は目的によらず、当社の許可なしに複製・複写することを禁じます。■当ファンドに関する投資信託説明書（交付目論見書）のご請求、お問合せは販売会社まで。